

佐倉市少年野球大会特別規則

令和8年2月21日

大会競技規則

1. 最新年度「公認野球規則」並びに全日本軟式野球連盟が発行する最新年度「競技者必携」及び「大会特別規則」を適用する。
2. 本大会規則は佐倉市少年野球大会（高学年（5・6年）大会、低学年（4年以下）大会）に適用する。
以下、高学年（5・6年）大会を「高学年大会」、低学年（4年以下）大会を「低学年大会」と略す。

大会特別規則

（出場資格及びチーム構成）

1. 大会出場資格は佐倉市少年野球連盟に年間登録費を納めてチーム登録したうえで、当連盟の各種大会を最優先できるチームであること。
2. チーム構成は成人者による代表者、監督、コーチ（2名）、スコアラー、介護員（保護者2名以内）と選手9名以上20名（1，2年生を含んでもよい）以内とする。ベンチ入り指導者（監督、コーチ）は、認定指導者有資格者及びスポーツハラスメント講習受講修了者とする（両資格は同一人物であること。）認定証については、試合前のメンバー表提出時に認定証の提出を求め確認する。ベースコーチは、全ての大会を通じて選手に限ることとする。（介護員については保護者の性別は問いません）
3. 出場チームは、連盟規約、大会規則、大会特別規則を遵守する事。参加する1チームの部員数が8名以下（1，2年生を除く）のチーム同士の場合は連合を認める。※連合は選手数が少ないチーム同士数チームでも可能とする。連合チームの中の1チームの部員数が9名（*1）を超えても連合していた他のチームの選手数が満たない場合はそのチームの選手登録は救済措置として認める。但し、連盟会長の承認を得ることとする。また、本項前段以外でも状況により救済措置として出場を認める場合がある。この場合は抽選会にて理事及び参加チームの承認を得ることとする。なお、各種大会に同一クラブで複数チーム出場する場合は、代表者を除きチーム構成員はチームを跨った出場は禁止する。

*1：9名のカウントは各大会により次の通り。

6年生大会：6・5・4年生の数を以てカウント

5年生大会：5・4・3年生の数を以てカウント

低学年大会：4・3・2年生の数を以てカウント

（服装・用具）

1. 同一チームの監督・コーチ・選手は、統一されたユニフォーム又は所属チームのユニホーム・アンダーシャツ・帽子・ストッキング（アンダーソックス着用）ストッキングはアンダーソックス着用が分かること。ストッキングは全体が見える様に着用する事（裾幅の広いパンツは不可）。代表者・スコアラー・介護員の靴は運動靴またはアップシューズとする。ユニフォーム着用者以外はグラウンドに練習中에서도出することは出来ない。但し、審判員が認めた場合は除く。
2. 背番号は監督30番、コーチ28番・29番、主将10番、選手は0～99番までとする。
3. 金属のスパイクは使用禁止。捕手（控え捕手も含む）は捕手用ヘルメット・マスク（スロートガード付および一体化も可能）・プロテクター・フェールカップ（女子選手は除く）を着用する。（シートノック時も含む）プロテクター・フェールカップを着用する。（シートノック時も含む）ヘルメットは打者・次打者・走者・ランナーコーチ・ボールボーイ全てが着用すること。ヘルメット・金属バットについてはJ S BBマークのある公認のものに限る。バットの使用制限を次の通りとする。（全軟野連発第366-3号による）
 - ①一般用バットで、打球部にウレタン・スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用は禁止とする。なお、一般用バットであっても前記以外の木製・金属製・カーボン製・複合（金属/カーボン）バットについては使用制限は行なわない。
 - ②少年用バットの使用制限は行なわない。
4. 本大会の使用球は全日本軟式野球連盟公認球「J号球」とする。

5. サングラスの使用は競技者必携の通りとする。

(抽選会・開会式)

1. 抽選会は、代表者、監督、28・29番のコーチ及び連盟に登録の事務局の何れかの指導者に限る。
2. 開会式、閉会式(表彰チーム・長嶋旗は全チーム)は、登録選手(各大会別)全員が参加のこと。

(試合の集合時間・準備)

1. 出場チームは、試合開始1時間前に集合し、監督は連盟制定のメンバー表5通をフリガナを記載の上、大会本部に提出のこと。なお、試合開始予定時刻に遅れた場合は棄権したものとみなす。
2. 審判は、球審を除き帯同審判が行う(準決勝戦以降および順位決定戦を除く)。また、低学年大会については準決勝戦までは帯同審判で行う。なお、帯同審判は原則として当連盟が認める1日審判講習会を受講した者に限る。準決勝以降及び順位決定戦は審判部で行う。試合開始予定時間の1時間前に集合のこと。
3. ベンチは組合せ番号の若番が一塁側、後番が3塁側とする。攻撃の先攻・後攻は試合開始予定時刻の40分前にジャンケンで決定する。以後、先発投手のみブルペンでの投球練習を認める。(バッテリーのみ)
4. シートノックは、直前の試合が終了した10分後に後攻チームから開始し、時間は5分間とする。但し、前試合の遅れ又は天候不安等が生じた場合は、短縮又は中止して試合を開始する。
5. シートノック時及び試合開始後、ユニフォーム着用指導者の投球練習の捕手(ブルペンを含む)とシートノックの選手からの返球の捕球を行う事は認める。捕手の場合は、マスク着用とし無しの場合は立って行うこと。
6. シートノックの補助員としてコーチ(背番号29・28)を認める。ダートサークルに入る補助員はヘルメットを着用すること。
7. シートノックを行うノッカーにボール渡しをする選手は、ヘルメットを着帽のうえ前方からのトス渡しとする。
8. ベンチ入りの代表者、監督、コーチ等の指導者が試合開始からゲームセットまでの間ベンチを離れた場合は、退場したものとみなし再びベンチに戻ることは出来ない。但し、特別な理由(トイレ等)の場合、審判員の許可を得ればこの限りではない。

(試合時間等)

1. 試合は、1試合1時間30分、6回均等回(低学年大会は1時間15分、5回均等回)で勝敗を争う。但し、タイムゲーム方式を最優先適用する。延長戦は、6回終了後又は1時間30分を超え(低学年は大会は5回均等回終了後又は、1時間15分、後攻の攻撃終了時で同点の場合は、「特別延長戦」で行う。打者は継続打順で0死1塁・2塁(走者は順次打者)にて投球制限を遵守の上、1イニングを行い点数の多いチームを勝者とする。1回で勝者が決定しない場合は、勝敗が決するまで継続打順にて、投球制限を遵守の上、繰り返し行う。(決勝戦においても同様)。
2. 得点差によるコールドゲームは、3回以降10点差・4回以降7点差とする。決勝戦も同様とする。
3. 日没・降雨コールドゲームの適用は、4回(低学年大会は3回)均等回終了後適用する(同点の場合は抽選とする)。4回(低学年大会は3回)均等回終了前の場合は、後日の第一試合に先立って特別継続試合を行う。特別継続試合の再開はもとの試合の中断された個所から再開する。試合場及び審判員は都合により変更することがある。
4. ダブルヘッダーの場合は、次の試合まで原則として30分間の時間を置く。

5. 1試合のタイムの制限は下記の通りとする。
守備側の投手のところに行く回数の制限は次の通り。
①監督が行った時点で1回とする。但し、投手交代の場合は回数に含まない。
②野手（捕手含む）が行った時点で1回とする。監督が行って選手を集めると監督回数1回、野手回数1回となる。
③タイムは監督回数・野手回数共に1試合につき3回までとする。但し、低学年大会は1試合につき2回。
④延長戦は監督回数・選手回数共に1イニング1回とする。
⑤攻撃側のタイム中に守備側は指示を与えることが出来るが、攻撃側のタイムより長引けば守備側も1回カウントされる。
攻撃側の回数制限は次の通りとする。
①1試合につき3回までとする。但し、低学年大会は1試合につき2回。
②延長戦は1イニングにつき1回とする。
③守備側のタイム中に攻撃側は指示を与えることが出来るが、守備側のタイムより長引けば攻撃側も1回カウントされる。
6. 帯同審判（控審判も含む）は、審判帽・審判服を着用する。また、グラウンドの設営・整備等の作業を行う。

（試合）

1. 同一投手の投球数は、1日70球以内とする。なお、高学年大会においては、投手は5・6年生とする。特例として4年生も認めるが、出来る限り5・6年生とする（ただし、4年生以下の場合は1日当たり60球以内とする）。低学年大会も球数制限とし、同一投手の投球数は1日60球以内とする。
なお、令和8年度から1週間210球までとする。（低学年は180球以内）
2. 審判員に対するアピールは、監督、当該選手とする。試合中のメガホンの使用は、監督のみとする。なお、「審判員の裁定を規則に基づく正しい裁定に訂正するように要請する場合やジャッジに関する内容を確認する場合には、監督と審判員が本部席付近で行うこと」
3. 塁ベースは原則として危険防止及び時間短縮を考慮し、固定ベースとする。
4. 次打者席には必ずバットを持って次打者が入ること。投手が投手に関連する動作（サインを見る姿勢）に入ったら速やかにスイングをやめ投球を注視する事。
5. 投手が投手板に触れて投球位置についたら投手に動揺を誘うような大きな声を発しないこと。
6. ベンチ内の大人がいかなる状況であっても、選手を委縮させるような言動を禁止する。
7. 悪質なアピール・やじ・抗議等を発するチームの当事者・又は代表・監督に大会責任者・球場責任者・当該審判員が退場を命じることがある。
8. 各チームの応援団並びにベンチは、相手チームに気分を害さないよう少年野球にふさわしい応援で臨むこと。（相手を絶対に野次らないこと）
9. 監督からの攻守に関する指示は簡潔に行う事、原則5秒以内とする。超過した場合はタイム1回とみなす。
10. 試合中の攻守交替は迅速に行う。監督が投手のもとへ行く場合は駆足を励行する。

（附記）

1. 大会期間中の負傷・疾病については、応急処置はするがその後の一切の責は負わないものとする。各チームで加入のスポーツ障害保険を充当する。
3. 大会特別規則以外については、公認野球規則及び全軟連競技者必携を適用する。
4. 各大会の審判の運用については審判部の決定事項に委ねる事とする。
5. ベンチ入り後の指導者によるバットを使った守備ノックと選手の素振り（指導者立ち合いのもと）ベンチ前のみ認める。但し、各球場の第一試合のチームはペッパー（トスバッティング）及び指導者による外野ノックを認める。
6. 同一試合での投手と捕手の兼任の禁止。2027年（令和9年）から導入。